

新品種候補（2010年1月作成）

研究課題名：てんさい新品種候補系統「H 137」の概要（222511）

担当部署：北見農試・作物研究部・畑作園芸科、十勝農試・作物研究部・畑作園芸科、中央農試・作物研究部・畑作科、上川農試・研究部・畑作園芸科、北農研・寒地バイオマス、てん菜協会

キーワード：テンサイ、そう根病抵抗性、高糖量

1. 特性一覧表

系統名：「H 137」 組合せ： HDKPP912037 × HC13028

特性：長所 1. 糖量が多い。

2. そう根病抵抗性が“強”である。

短所 1. 褐斑病抵抗性、根腐病抵抗性が「リゾマックス」より弱い“やや弱”である。

普及見込面積：平成22年度 800ha 平成23年度以降 10,000ha

栽培条件	健全圃場				そう根病発病圃場	
調査年次	平成18～21年				平成20～21年	
品種・系統名	H 137	モノホマレ (標準品種)	レミエル (対照品種)	リゾマックス (対照品種)	H 137	リゾマックス (対照品種)
倍数性	二倍体	二倍体	三倍体	二倍体		
葉姿	直立	直立	やや開平	中間		
葉長	中	長	中	中		
葉数	多	やや多	やや多	やや多		
葉形	やや皮針	皮針	楕円	皮針		
クラウンの大小	小	小	やや小	小		
根形	やや短円錐	円錐	円錐	円錐		
分岐根	少	少	少	少		
露肩	やや多	中	中	やや少		
根重(t/10a)	8.05(118)	6.85(100)	7.44(109)	7.93(116)	7.17(102)	7.03(100)
根中糖分(%)	17.17(103)	16.69(100)	17.24(103)	16.67(100)	17.71(102)	17.28(100)
糖量(kg/10a)	1,377(121)	1,141(100)	1,278(112)	1,318(116)	1,269(104)	1,215(100)
修正糖量(kg/10a)	1,213(123)	989(100)	1,140(115)	1,161(117)	1,167(104)	1,121(100)
アミノ態窒素(meq/100g)	1.56(75)	2.09(100)	1.88(90)	1.66(79)	0.69(65)	1.06(100)
カリウム(meq/100g)	4.19(93)	4.49(100)	3.95(88)	3.85(86)	1.58(69)	2.30(100)
ナトリウム(meq/100g)	0.36(56)	0.64(100)	0.40(63)	0.40(63)	0.38(81)	0.47(100)
不純物価(%)	3.90(81)	4.79(100)	3.97(83)	3.93(82)	2.47(104)	2.38(100)
抽苔耐性	強	強	強	強	参考品種との比較(平成18～19年)	
そう根病抵抗性	強	やや弱	—	強		
褐斑病抵抗性	やや弱	やや弱(やや強)	弱	やや強	根重(t/10a)	8.34(108)
根腐病抵抗性	やや弱	やや弱(弱)	やや弱	やや強	根中糖分(%)	16.65(102)
黒根病抵抗性	中	中	中	中	糖量(kg/10a)	1,384(110)

注1) 形態の特性は北見農試の成績。健全圃場は十勝農試、北見農試、北農研センター、てん菜協会(3カ所)の計6カ所、延べ24カ所平均で、()は「モノホマレ」に対する比。

2) 修正糖量、アミノ態窒素、カリウム、ナトリウム、不純物価は平成19、20年の十勝農試を除く。

3) そう根病発病圃場は北見農試そう根病抵抗性検定圃場の2カ年平均(そう根病発病程度は平成20年:中、平成21年:少)で、()は「リゾマックス」に対する比。

4) 特性検定は担当農試の成績で、褐斑病抵抗性、根腐病抵抗性における「モノホマレ」の()内は品種登録時の評価。「レミエル」はそう根病抵抗性を持たないため、特性検定試験には供試していない。

5) 参考品種との比較は、健全圃場における2か年延べ12カ所平均。()は「アセンド」に対する比。

2. 特記すべき特徴

「H 137」は、そう根病抵抗性が“強”で、「レミエル」と比較して、根重がかなり重く、糖量は多い。「リゾマックス」と比較して、根中糖分が高く、糖量も多い。

3. 優良品種に採用しようとする理由

てんさいの重要病害である、テンサイそう根病は化学的防除が困難なため、発病圃場では抵抗性品種の作付けが不可欠である。近年、同病害の拡大とともに抵抗性品種の作付シェアは増加し、平成21年現在、約38%を占める（北海道農政部調べ）。その中で、「リゾマックス」は、平成17年にそう根病に抵抗性を有する優良品種として認定され、そう根病発生地帯を中心に作付されている。しかし、根中糖分が“かなり低”に分類されることから、より根中糖分や糖量の高いそう根病抵抗性品種が望まれている。

「H 137」はそう根病抵抗性を有し、「リゾマックス」と比較して、根中糖分が高く、糖量も多い。また、「アセンド」、「レミエル」など近年導入されたそう根病抵抗性を持たない一般品種と比較しても、根重がかなり重く、糖量は多い。褐斑病抵抗性と根腐病抵抗性は、「リゾマックス」より弱い“やや弱”であるが、慣行の防除体系下では「リゾマックス」並の発病程度に抑えることが可能である。

以上のことから、「H 137」を、「リゾマックス」の全部と、「レミエル」などそう根病抵抗性を持たない一般品種の一部にも換えて普及することにより、てんさいの安定生産に寄与できる。

4. 普及見込み地帯

北海道一円

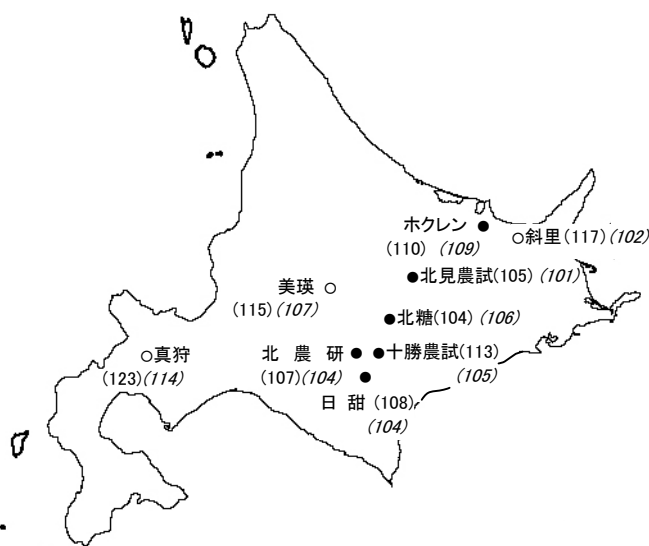
図 「H 137」の糖量

●：輸入品種検定試験、品種連絡試験成績（平成18～21年）

（対「レミエル」、「リゾマックス」百分比表示、斜字体が「リゾマックス」対比）

○：輸入品種現地検定試験成績（平成20～21年）

（対「モノホマレ」、各地域の比較品種百分比表示。斜字体が各地域の比較品種比。各地域の比較品種は、真狩村「クローナ」、斜里町「アセンド」、美瑛町「きたさやか」）



5. 栽培上の注意

- 1) 褐斑病抵抗性、根腐病抵抗性が“やや弱”であるため、適切な防除に努める。